

Alec Dickson

(アレック・ディクソン)

アレック・ディクソン (Alec Dickson, CBE ,LLD) は、1914年に英国のスコットランド、グラスゴーで生まれた。ラグビー校で青春を過ごした後、オックスフォード大学で法律学を学んだ。

ジャーナリストとして、英国の新聞社『デイリーテレグラフ』や『ヨークシャーポスト』の記者となったディクソンは、中部ヨーロッパの戦場で反ナチズムや、反植民地主義報道を展開。第2次世界大戦の終結とともに、ベルリンにおける戦争処理問題や戦争難民の救援キャンペーンを行うとともに、独立が続く開発途上国を支援する報道に取り組んだ。

その後、国連機関『ユネスコ』に請われ専門家に転身。中東やアフリカ諸国において、教育政策や社会開発のコンサルタントをつとめた。その蓄積をもとに、1957年には生涯のパートナーであるモラ夫人とともに、世界ではじめてのボランティア活動推進機関『VSO』(Volunteer Service Overseas=英国国家機関)を創設した。

ディクソンの計画は、アメリカ合衆国のJ. F. ケネディ大統領の目にとまり、選挙公約として提唱した「ニューフロンティア計画」の政策に活かされて、大統領の直轄機関『Peace Corp』(日本語訳: 平和部隊)や、『VISTA』(Volunteer in Service to America)が誕生した。その結果、世界にボランティア活動推進機関設立ブームをまきおこした。また、1970年に設立された『国連ボランティア』(UNV=United Nations Volunteers)を提案したり、世界各国のボランティア推進計画のアドバイザーとして活躍した。足跡は、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島にまで広がっている。

1964年には、国内ボランティア活動推進機関『CSV』(Community Service Volunteers)を創設した。『CSV』は現在、英国最大の民間非営利組織として、青年のフルタイム・ボランティアの派遣、テレビ・ラジオと提携したボランティア番組の制作、学校教育や社会教育におけるボランティア学習計画のコンサルタント、社会適応困難者な青少年のためのボランティアプログラム開発など、その優れた功績は世界的評価を受けている。近年では、ブレア政権の教育改革の一環として、2002年9月からスタートした公立中等学校の必修科目「市民学習」(Citizenship)の計画・運営・評価の中心的役割を担っている。

生涯にわたって、社会の不条理と闘う人びとや少数者の視点から行動する“現場主義”をつらぬき、奇抜で革新的な行動提案や独特のジョークを織り交ぜた弁舌は、世界中の人びとを魅了し、「世界のボランティアの父」と呼ばれている。

アレック・ディクソンは、1994年9月23日、ロンドン郊外の自宅で80年の波乱に満ちた生涯を閉じた。モラ夫人とともに暮らした自宅は、現在はロンドン市によって史跡に指定されている。

「すべての人びとに、ボランティアになるチャンス！」(Alec Dickson)

- * 日本ボランティア学習協会が『アレック ディクソン賞』を創設することについては、モラ・ディクソン夫人の賛同を得て行うものです。